Inexplicable owl

vol.2 fuzzy

Inexplicable owl

vol.2 fuzzy

1. 見えない環 **[招待作品]**
   composer 伊藤 美由紀　　saxophone 所 克頼

2. Nebel
   composer 鳥羽 宏美　　clarinet 丹羽 夏望　　piano 山本 多恵佳

3. 一つの事象
   composer 田中 範康　　oboe 安原 太武郎　　piano 山内 敦子

4. Visions
   composer 原田 裕貴　　piano 山内 敦子

5. fluffy clouds
   composer 平野 玲美　　saxophone 所 克頼　　piano 平野 玲美

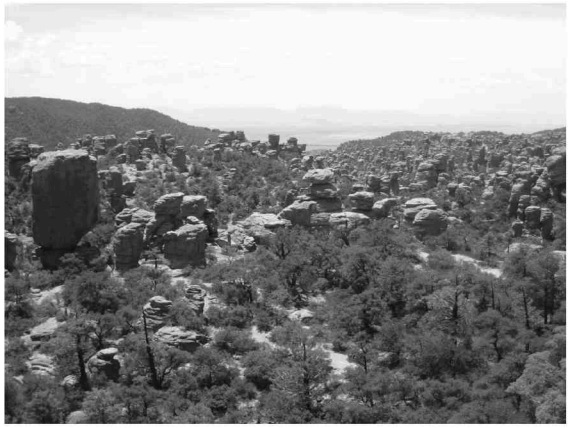
6. チェロとピアノのためのソナタ
   composer 細井 博之　　cello 紫竹 友梨　　piano 扶瀬 絵梨奈

見えない環 ［招待作品］

この作品は、2006 年 夏、アリゾナを訪れた際に立ち寄った、チリカワ国定公園の自然の偶然の産物、あるいは、芸術ともいうべき雄大な光景がきっかけとなっている。

地平線にまで続く砂漠のなかに現れた山並に入り込むと、「砂漠の海に浮かぶ島」と呼ばれる 2700 万年前の火山爆発の際の浸食によってできあがった奇妙な形の尖塔の群像の景観が突如、目の前に現れ、広大さと自然の偉大さに圧倒され、脳裏に焼き付いた。想像を絶するこの光景が、時代を超えてどのようにして現在のような状態に至ったかを考えることは、まるで地球のロマンを感じるようだ。その場でこの地形を見ている自分も、また、この地形／自然の一部であることを考えると、目に見えないリンクで全てはつながり、そのバランスによって、私たちは存在するに違いない。そんなことを想像しながら、静まり返ったこの世のものでないようなその場所で音を発すると、全ての複雑な群像に反響し、複雑な音が、まるで遠い過去の世界から戻ってきたように自分に帰ってきた。

エレクトロニクス、風鈴の音がサクソフォンの音色にとけ込み、複雑な音響空間を生み出している。



チリカワ国定公園

Player

伊藤 美由紀　Miyuki Ito

愛知県立芸術大学、マンハッタン音楽院修士課程修了。コロンビア大学（NY）で作曲をトリスタン・ミュライユに師事、博士号を取得。文化庁芸術家在外研修員としてIRCAM（フランス国立音響音楽研究所）にて研鑽を積む。
東京オペラシティ、ミュージック・フロム・ジャパン（NY）、アタック・シアター（ビッツバーグ）、オニックス・アンサンブル（メキシコ）、愛知芸術文化センターなどからの作品委嘱ほか、カーネギーホール（NY）、レゾナンス・フェスティヴァル（パリ）、ISCM世界音楽の日々、国際電子音楽会議、SMC、Re:New、ヴィジョネス・ソノーラス（メキシコ）、マニュエル・エンリケ国際現代音楽フォーラム（メキシコ）をはじめ、世界各国のコンクール、音楽祭に入賞、入選し、国内外で作品の発表を続けている。国際交流基金助成により、CMMAS（メキシコ国立音響研究所）に２回のレジデンシーにて創作活動、作品発表も行う。ニンフェアール、JUMP の代表として自主企画公演を定期的に名古屋、ニューヨークを中心に展開。第10回ニンフェアール公演は、第 14 回佐治敬三賞を受賞。『時の砂』が ALCD80 からリリース。
現在、名古屋芸術大学、千葉商科大学非常勤講師。日本作曲家協議会、日本著作権協会会員。　www.miyuki-ito.com

saxophone 所 克頼　Katsuyori TOKORO

岐阜県出身。関高等学校卒業。名古屋芸術大学卒業。同大学定期演奏会、卒業演奏会出演。ヤマハ管楽器新人演奏会、岐阜県新人演奏会、岐阜市民芸術祭など出演。
渡米し、インディアナ大学音楽学部パフォーマーディプロマ修了。帰国後、名古屋芸術大学大学院音楽研究科修了。
第６回横浜国際音楽コンクール第３位。第３回飛騨河合音楽コンクール第２位（１位なし）。
2009 年よりリサイタルなど開催。
ファブリス・モレティ、ユージン・ルソー、ジョナサン・ヒルトン各氏のレッスンを受講。これまでにサクソフォンを遠藤宏幸、雲井雅人、三日月孝、オーティス・マーフィーの各氏に師事。
現在、フリーのサクソフォン奏者としてソロや室内楽での演奏や講師など東海地方を中心に活動。
デュオ・ピクニック、クレセントカンパニー、妄想会議、竹林笹頼、竹森笹頼、ユニータ・デラ・サックスメンバー。

Nebel

“Nebel”とは、ドイツ語で霧という意味である。

霧の中の様子というのは先が見えずどこか不気味で恐ろしいというイメージがある。しかしその反面、遠くから見る霧の景観はとても美しく、神秘的である。

今回の作品は、この正反対な印象を持つ霧をピアノとクラリネットの音で表現している。例えば、出だしのピアノの旋律は空気中に浮遊する霧の水粒１つひとつを細やかな音の粒で表現している。

この作品は無調ではあるが、あらゆる場面に登場する和音をいかに美しくするかにこだわり作品制作に取り組んだ。

piano 山本 多恵佳　Taeka YAMAMOTO

愛知県立明和高等学校音楽科卒業。名古屋芸術大学音楽学部演奏学科ピアノコース首席卒業。同大学大学院音楽研究科修了。理事長賞受賞。パリ・エコールノルマル音楽院ディプロム取得。
第２回山田貞夫音楽賞及び特選（第１位）受賞。第６回横浜国際音楽コンクールピアノ協奏曲部門第１位。第２回東京ピアノコンクール大学部門第２位。他多数のコンクールにて上位入賞。ハンガリーにてショルティ記念オーケストラと共演。セントラル愛知交響楽団、他国内外のオーケストラと共演を重ねる。
これまでに、太田祐子、西典代、ファルヴァイ・シャンドール、中沖玲子の各氏に師事。
現在、名古屋芸術大学 音楽学部契約助手、同大学保育・福祉専門学校 非常勤講師。

鳥羽 宏美　Hiromi TOBA

岐阜県多治見市出身。
幼少期より多治見少年少女合唱団で団員として活動。同団では、現代音楽を中心にさまざまなジャンルの作品を演奏している。
名古屋芸術大学サウンド・メディアコース卒業。
在学中は合唱団で演奏してきた作品をきっかけに現代音楽に興味を持ち、現代音楽作品の制作を中心に学ぶ。
2011 年には同大学主催、The renaissance21「プラネタリア」で『戦〜Ikusa〜』を初演。翌年、Renaissance「鼓動」で『混沌』を初演。また、同年「カレイドスコープ 2012 Sympathy」で立体音響を用いた作品『Natura duce nunquam aberrabimus』を初演する。
作曲は田中範康氏に師事。

clarinet 丹羽 夏望　Natsumi NIWA

名古屋芸術大学音楽学部弦管打コース卒業。卒業時に理事長賞受賞。
同大学主催のコンチェルトの夕べにて、モーツァルトのクラリネット協奏曲を大学オーケストラと共演。同大学主催の室内楽の夕べ、定期演奏会、卒業演奏会、新人演奏会に出演。
第15回ヤマハ管楽器新人演奏会、第85回読売新聞新人演奏会に出演。宗次ホール主催のランチタイムコンサートに出演。
クラリネットを竹内雅一氏に師事。
モーツァルテウム夏期国際音楽アカデミーにて、アロイス・ブランドフォーファー氏のレッスンを受講。第20回浜松国際管楽器アカデミーにて、ヴィセンテ・アルベローラ氏のレッスンを受講。
第14回、第15回大阪国際音楽コンクール入選。第７回岐阜国際音楽コンクール３位。ジャーナリスト賞受賞。
現在、名古屋芸術大学大学院１年生。

一つの事象

「オーボエは、２枚リードの楽器の宿命とも言えるディナーミックのコントロールが大変難しく、作曲家にとって非常に書きにくい楽器の一つである。」と、私の作曲の師匠が異口同音に言っていた言葉である。
しかし、この楽器の歴史は、そのような楽器の特性をもっているのにもかかわらず、過去より現代に至る迄その魅惑的な音色に惹かれて、多くの名曲が存在する。今回、師匠の話を思い起こしながらも、あえて本作品にチャレンジしたわけだが、特殊奏法に依拠する事無く、２つの楽器のアンサンブルの中で培われる楽器の本来的な響きに着目し、静寂の中にも印象派の絵を想起さすような、響きの輝きを求めてみた。本日この拙作を、お二人の名手がどのように料理をしてくださるのか、楽しみである。

oboe 安原 太武郎　Taburo YASUHARA

東京音楽大学付属音楽高等学校を経て、東京音楽大学卒業。
ドイツ・カールスルーエ音楽大学、大学院修了。
第15回かながわ音楽コンクール管楽器部門総合第１位。
小澤征爾音楽塾オペラプロジェクト「ドン・ジョヴァンニ」、ロストロポーヴィッチ・コンサートキャラバン 2002、2005 に参加。サイトウ・キネン・フェスティヴァル松本「ふれあいコンサート」に出演。アフィニス夏の音楽祭 2011 広島に参加。
これまでに安原理喜、小島葉子、宮本文昭、加納律子、トーマス・インデアミューレの各氏に師事。
現在、セントラル愛知交響楽団オーボエ奏者。
名古屋芸術大学、金城学院大学非常勤講師。

田中 範康　Noriyasu TANAKA

東京生まれ。
国立音楽大学附属高等学校を経て、国立音楽大学作曲学科並びに器楽科（オルガン専攻）卒業。
作品は、NHK-FM、アメリカ、韓国などの放送メディアや、国内はもとより、ドイツ、オーストリア、フランス、北欧、韓国、アメリカ、メキシコの主要都市でのコンサートや音楽祭などで、広く紹介されている。
また、CDリリースも多く、代表的なものとして、オーストリアのVMM（Vienna Modern Masters）レーベルから室内楽作品集として、２枚のアルバムがリリースされている他、近々では、「田中範康作品集」（ALCD87 朝日新聞推薦盤）が 2011 年２月に、田中範康作品集Ⅱ［音の情景］」（ALCD103）が 2014 年 11 月に、ALM レコードよりリリースされた。
その他、マーザーアースより、室内楽作品、ピアノソロ楽譜が出版されている。
現在、名古屋芸術大学音楽学部、同大学院音楽研究科教授。
日本現代音楽協会会員、日本作曲家協議会会員、日ロ音楽家協会会員。

piano 山内 敦子　Atsuko YAMAUCHI

愛知県立明和高等学校音楽科を卒業後、渡仏。パリ・エコールノルマル音楽院に入学。20歳で高等演奏家ディプロムを修得し最高課程を修了。帰国後、愛知県立芸術大学音楽学部器楽学科を卒業。
ウィーンミュージックセミナーインターナショナルマスタークラス、チューリッヒ国立音楽大学春季マスタークラスを修了。
ロゼピアノコンクール 2005 第２位。第４回ノーヴィ国際音楽コンクール第１位。第５回チェコ音楽コンクール第１位、チェコ共和国大使館に於いて受賞者演奏会に出演。
2011、2012、2014、2015 年「山内敦子ピアノリサイタル」を開催。
現在、岡崎女子短期大学、岡崎女子大学、中部大学、各非常勤講師。

http://ameblo.jp/perleay/

Visions

げん-ぞう【幻像】－ 実際にはないのに、あるかのように見える姿や形。

エレクトロニクスを用いた作品を再び書こうと思い立った時、頭をよぎったのがこの言葉だった。
エレクトロニクスは、アコースティック楽器だけでは表現できない音響空間の創出を可能にする。そこから発せられる音は、大いに楽想を助長してもくれる。

無機質な電子音とアコースティック楽器の音との温度差のようなものから生まれる独特な音響。
それには興味が尽きない。

原田 裕貴　Yuki HARADA

愛知県豊田市出身。
国立豊田高専環境都市工学科を卒業後、名古屋芸術大学サウンド・メディアコースに入学、同大学大学院音楽研究科修了。
在学中より映画、舞台、ゲーム、TV-CM 等の音楽制作に携わる。主な作品は、Wii『アークライズファンタジア』、アニメーション『GOLDING 第 1 章～透明人間の殺戮～』、ジェイアール名古屋タカシマヤ『Amour du Chocolat!』等。
2013 年、メキシコのモレリア市で行われた音楽祭「VISIONES SONORAS」において、映像とのコラボレーション作品を発表。今年 3 月には、ニューヨークで笙とエレクトロニクスのための作品が演奏された。また、過去には坂本龍一氏がナビゲーターを務めるラジオ番組「RADIO SAKAMOTO」でオーケストラ作品や室内楽作品が紹介されている。
第 1 回 TIAA 全日本作曲家コンクール審査員特別賞。
現在、名古屋芸術大学、岡崎女子大学、岡崎女子短期大学非常勤講師。

http://yukiharada.com

fluffy clouds

ふわふわの雲は、今日も風に流されている。

わたがしみたいな甘い雲―強風が吹いてバラバラになっても、何事もなかったかのように集まって、また水色の空に白くふわふわと漂っている。

どんよりとした灰色の雲―嵐のあと、光を取り戻した雲間から覗く一条の道筋は、何を差し示しているのだろう。

水色・黄色・赤や紫…様々な空があるけれど、夕暮れに出現する黄金の雲は、太陽が映し出す最高の絵画。絵の具を何色重ねても表現できない美しさ。

見た者の心までキラキラに輝き、今にも天に届きそうな神々しさを纏っている。

その雲から降りそそがれる雫は、やはり黄金色だろうか…？

ふわふわの雲は、ただの風には流されない。

自らの意志で、虹色の空を駆け巡るのだ。

平野 玲美　Remi HIRANO

名古屋芸術大学器楽科ピアノコース卒業。同大学研究生を経て、同大学大学院音楽研究科作曲専攻修了。
在学中、同大学主催の「ピアノの夕べ」「卒業演奏会」等に出演。
パウル・バドゥラ＝スコダ、ケビン・ケナー、ファルヴァイ・シャンドール各氏のレッスン受講。
ハンガリー・リスト音楽院サマーサミナー参加。パリ・エコールノルマル音楽院マスターコース講習会参加。
2009 年にはパリで、2012 年にはベルギーに於いて自作の室内楽作品を発表。
第 5 回フランス音楽コンクール入選。第 3 回 TIAA 全日本作曲家コンクール審査員特別賞受賞。第 11 回日本アンサンブルコンクール入選。第 8 回横浜国際音楽コンクール・アンサンブル部門 (連弾) 第 2 位。
ピアノを浦山文子、早瀬圭子の各氏に、作曲・オルガンを田中範康氏に師事。

チェロとピアノのためのソナタ

チェロとピアノという編成のソナタを書こうと最初に思ったのはもう12年も前のことだったのだけれど、ずっと構想だけがあって内実の音そのものはどう書けばいいのかさっぱりわからなかった。

しかしそれが最近になって、この古典的な形式が自分にとって別の意味を持ち始めた。それは、僕自身が音そのものの響きやリズムといったフォーム（外観）としての美しさよりも、その背後にある理念としての美しさを求めるようになったからだった。例えば、ソナタとは対立していた２つのものが１つに融合するという西洋の理念を内包した形式だった。それが、自分の中で２つに分かれてしまっていた昔の作風と今の作風を１つに融合したいという考えと一致して初めて、12年越しの音は少しずつ埋まり始めていった。

ここで言う「理念」とは物質的な形を伴わないもののことで、例えば読んでいる本をパタンと閉じた瞬間に目の前の物語がふっと消えてしまうみたいに、考えるのを止めた瞬間に綺麗に消え去ってしまうようなものだと考える。しかし、12年も掛かってしまったあたり、この理念を実感を伴って指向できるようになるためには物質的なものからもまたいかに多くを学ばなければならなかったかとも思う。

さて、本作品は古典的な習慣に従って第１楽章はもちろんソナタ形式で書かれているけれど、各楽章間にもこの関係があって二重の意味でソナタを構成している。つまり、第１主題的な性格を持った第１楽章と第２主題的な性格を持った第２楽章と、それらが融合される展開部以降に該当する第３楽章を持つ。

第１楽章 Allegro moderato E moll 4/4 拍子

内省的な楽想を切々と歌い続ける古典的なソナタ形式。冒頭のピアノによって提示される朗々と歌われる第１主題と、後に清澄なコラール風の音型に乗せられる音列による第２主題を持つ。全体的に流暢な流れの中に自然発生的で対位法的な展開が多く、展開部ではそれらが特に顕著に表れている。

第２楽章 Lento 4/4 拍子

静謐な趣のある緩徐楽章。全体の構造の計算に波動方程式を応用した。波動方程式とは、弦・空気・水などでの振動が伝わる様子を記述する際の基本的な方程式。本作品では、人間の理性によって理解される偏微分方程式を現代のデジタル計算機上で扱いやすい差分方程式に変形したものを自作のソフトウェア上で計算し、波の大きさを音符の密度とした。例えるならば、池の水面の上にチェロとピアノを浮かべ、互いの音が水面の波に乗り時に岸で反射し、相互に関係する複雑で豊かな波の音楽が展開される、と言える。

第３楽章 Vivace E dur 6/8 拍子

フィナーレとなる軽快なロンド形式。牧歌的な旋律を緩やかに歌う第１主題と、色彩的な音が精緻に編み込まれた第２主題を交互に繰り返しながら、うねりは次第にひとつとなってゆく。

最後に、この場を借りて。扶瀬さんは学生時代にも僕の重要な作品の演奏を務めてくださり、今回はそのご友人の紫竹さんにもご出演いただいた。今回もまた、お二人は演奏にあたって大変なご尽力をしてくださった。お二人に対して深く感謝すると共に、作曲の内容を持ってしてそのご好意にお応えできればと願っている。

細井 博之　Hiroyuki HOSOI

静岡県浜松市出身。
名古屋芸術大学音楽学部卒業、愛知県立芸術大学大学院音楽研究科修了。
在学中よりセントラル愛知交響楽団、愛知室内オーケストラ、愛知県立芸術大学管弦楽団を始めソロや室内楽も含め様々な演奏家によって作品が演奏される。近年は東京・パリでも作品が演奏される一方で、名古屋ではコンサート「オセロ」や作曲家グループ「Inexplicable owl」にも参加し作品を創出・発表している。
また、演奏家によりリリースされたCDにも作品が収録されている（Repure ～あなたを生きるあなたに～ / みずとたま [MTNA01]）。
第２回TIAA全日本作曲家コンクール入賞、第30回読売中部新人演奏会出演、新進アーティストの発見 in あいち～アーツ・チャレンジ2010音楽部門入選。
作曲を田中範康、岩本渡、光部雅人、北爪道夫、久留智之の各氏に師事。
主な作品に、ヴァイオリンとピアノのためのロンド『秋』、『かりそめの変容』、ピアノ協奏曲などがある。

http://www.h-hosoi.skr.jp/

Players

cello 紫竹 友梨　Yuri SHICHIKU

新潟県出身。10 歳よりチェロを始める。愛知県立芸術大学音楽学部を経て、同大学大学院音楽研究科博士前期課程修了。
第 21 回レ・スプレンデル音楽コンクール室内楽部門第 1 位。
在学中、学内オーディションによって選抜され、第 42 回愛知県立芸術大学定期演奏会、愛知県立芸術大学卒業演奏会など演奏会に多数出演。
ジャパンストリングカルテット弦楽四重奏団マスタークラス、プラハサマーアカデミー、チェルヴォサマーアカデミーを受講し、演奏会に出演。また草津国際音楽祭を奨学生として受講、演奏会出演。
これまでに天野武子、花崎薫、松波恵子、舘野英司、渋谷陽子、ルドヴィード・カンタの各氏に師事。
2012 年から 2014 年、2015 年より愛知県立芸術大学アンサンブル要員。2014 年新潟県立新潟中央高校特別講師として公演するほか、新潟市ジュニアオーケストラ OBOG アンサンブル、新潟チェロアンサンブルとコンチェルトを共演。
現在は東海地方を中心にソロや室内楽、オーケストラなど幅広く演奏活動を行いながら、後進の指導にも力を入れている。
トパゾス弦四重奏団、悠情楽団として CD 発売中。

piano 扶瀬 絵梨奈　Erina FUSE

愛知県立明和高等学校音楽科、愛知県立芸術大学音楽学部器楽科を経て、パリ・エコールノルマル音楽院修了。愛知県立芸術大学大学院博士前期課程鍵盤楽器領域首席修了。長久手市長賞受賞。
第 28 回ピティナ・ピアノコンペティション C 級全国決勝大会銅賞。洗足学園前田賞受賞。ポーランド国立クラクフ室内管弦楽団と共演。第 6 回全日本彩明ムジカコンソルソ最高位。全音楽譜出版社賞受賞。愛知県立芸術大学第 42、43 回定期演奏会および第 41 回卒業演奏会、第 32 回中部読売新人演奏会、愛知県立芸術大学大学院最優秀修了生によるコンサートほか、多数の演奏会に出演。
フラムピアノコンクールおよびイル・ド・フランス国際ピアノコンクールファイナリスト、ラニー・シュル・マルヌ国際ピアノコンクール第 3 位。(財)大幸財団育英奨学生。
これまでに I. ローマン、C. エルトン、W. ブロンズ、K. ドラフィー、P. ドヴァイヨン、A. ケフェレック、H. バルダ、秦はるひ各氏のマスタークラスを受講。
野々山雅子、清水皇樹、ブルーノ・リグット、熊谷恵美子の各氏に師事。
現在、後進の指導にあたる傍ら、ソロや室内楽など幅広く演奏活動を行っている。
Ensemble Famille Voix 伴奏者。

2015.11.19
Menicon ANNEX HITOMI HALL
NAGOYA